

散策ガイド

松山市南西部コース
(明治二十八年十月七日)



① 朝寒や
あさむむ
たのもとひびく
内玄関

② 男ばかりと見えて
かかし
案山子の
あわなり
哀れ也

③ 御所柿に
おしよがき
雄群祭の
かな
用意哉

④ 鳩麦や
ほとむぎ
昔通ひし
かよ
叔父が家
おじ

⑤ 行く秋や
行くあき
手を引き合ひし
松二木

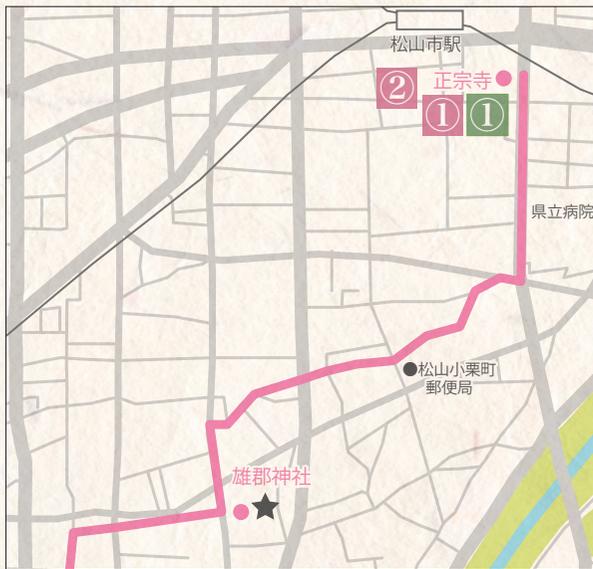
⑥ 萩あれて
はぎ
百舌啼く松の
もすな
梢かな
こすえ

⑦ 花木権
はなむくげ
家ある限り
はた
機(はた)の音

⑨ 見ゆるべき
きり
御鼻も霧の
きり
十八里

⑧ 方十町
ほうじゅつちょう
砂糖木島の
さとうきびたけ
野分哉
のわけかな

■ 留意点
このコースはすべて周ると一日かかります。休憩ポイント(★)で休憩をなさむか、一部のエリアだけを散策することをお勧めします。



みどころ

子規堂を訪れて、子規の直筆の作品や遺品を鑑賞しよう。



■ 子規堂※

正宗寺の境内にある子規堂は、子規が十歳まで暮らした家を復元した建物です。子規堂内には、子規の直筆原稿や遺品などが展示されています。



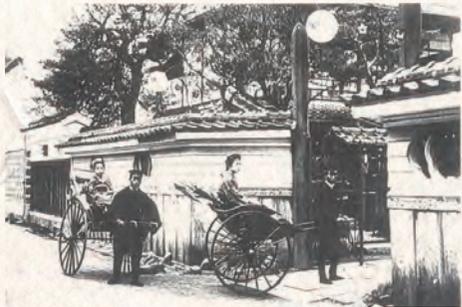
▲子規堂内に再現されている子規の勉強部屋

この日のまち歩きについて
 天気快晴心地ひろくすがすがしければ俄かに思ひ立ちて人車をやとひ今出へと出で立つ道に一宿を正宗寺に訪ふ 同伴を欲する也 一宿故ありて行かず

■ 当時の子規

子規は、十数日前から今出(垣生)に住む村上霽月(同コースの「4 村上霽月邸」長楽寺エリア参照)に「私のところを訪ねて来てほしい」と何度も誘われていました。しかし、天気も体調も悪く、霽月邸を訪れることができない日が続いています。

この日は、快晴で体調も良かったため、人力車で霽月邸まで出きました。



▲人力車(明治末期頃)
 (『創造都市まつやま』より)

① 朝寒や
 たのもとひびく
 内玄関

朝冷えがする禅寺の内玄関で、誰かの「たのもうー」と言う声が響いている様子を表しています。

■ 正宗寺住職 釈仏海

霽月邸に向かう途中、子規は正宗寺に寄って住職の釈仏海を誘いました。仏海は子規の幼馴染で俳号を「一宿」といいます。

仏海は、子規の竹馬の友で、生涯にわたって交友を続けますが、この日は都合が悪く同行できなかったようです。

■ 「たのも」

「たのもう」のこと。武士等が他家を訪れた時の挨拶で、「たのみましよう」という意味です。

みどころ①

正宗寺境内にある子規堂を訪れて、子規の書いた原稿や絵を見てみよう。

みどころ②

正宗寺境内にある昔の「坊っちゃん列車」の客室に乗ってみよう。

※ 子規堂への入館には、大人は入館料五十円が必要です。



★ 雄郡神社の境内に休憩できるスペースがあります。

みどころ

昔の田園風景を想像しつつ、雄郡神社へと続く道を歩いてみよう。



▲昔の保免の宮(愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より)
このエリアは、当時、辺り一面に田畑が広がっていたため、2キロ先の保免の宮(日招八幡大神社)がここからも見えたとされています。

② 男ばかりと見えて
案山子の
哀れ也

子規が雄郡神社に向かっていると、稲の穂が実る田んぼの中に男性ばかりの案山子が立っていて、さみしい感じを受けた様子がかがえます。

③ 御所柿に
雄群祭の
用意哉

雄郡神社を通りがかったときに、お祭り用の御所柿を準備している風景をしみじみと眺めていた様子がかがえます。

雄郡神社

雄郡神社は、正岡家の産土神です。

産土神とは、生まれた土地を守護する神様であり、その土地に生まれた者を生まれた時から死ぬ時まで守ってくれると信じられています。

雄群祭

雄郡神社のお祭りは、当時、毎年十月二十三日と二十四日に行われていました。現在は、毎年十月七日に行われています。

御所柿

御所柿とは、奈良県御所市原産の小ぶりの甘柿で、子規の好物でした。

みどころ③

子規とゆかりのある雄郡神社の境内を探索してみよう。



▲昔の雄郡神社



▲昔の農業の様子(『創造都市まつやま』より)



★ 本村公園内に休憩できるスペースがあります。

みどころ

子規も子どもの頃に遊んだ三島大明神の境内を散策しよう。



▲土居田の社(「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より)

現在の本村公園の中に、当時、土居田の社がありました。子規も散策の途中でこの社に立ち寄ったようです。

④

はとむぎ
鳩麦や
普通ひし
おじ
叔父が家

鳩麦を見て、子どもの頃に書を習いに通っていた叔父の家を思い浮かべている様子を表しています。

■ 叔父 佐伯政房

子規の叔父 政房は余土に住んでいました。旧藩時代は上司に代わり文章を書く役目を務めた人物であり、御家流の書に優れていました。

■ 鳩麦

鳩麦は、イネ科の植物で、別の植物「ジユズダマ」と間違えるほど、この植物によく似ています。子規は後にこの句の「鳩麦や」の部分を「意改仁や」に改めました。



▲鬼子母神堂(昭和45年頃撮影) (「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より)

みどころ④

子規も立ち寄った鬼子母神堂の昔の写真と今の様子を見比べてみよう。

⑤

行く秋や
手を引き合ひし
松二木

手引き松を見て、子どもの頃に遊んだことを思い浮かべつつ、秋の終わりを感じている様子を表しています。

■ 手引き松

竹の宮と呼ばれていた三島大明神の境内には、松の木が二本並んでおり、その片方の枝が隣の松とつながっていました。この二本の松は、まるで人々が手をつないでいるように見えていたことから、「手引き松」と呼ばれていました。



▶手引きの松(昭和四十五年頃撮影) (「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より)

みどころ⑤

今も残されている手引き松を見てみよう。



4

村上霽月邸〜長楽寺エリア

せいげつてい



★ 空港東第三公園や奥土居神社の中に、休憩できるスペースがあります。

みどころ

松山の産業に大きくかかわった村上霽月や鍵谷カナにまつわる場所を訪れよう。



森月

(二八七〇―一九五五)
森月は、子規の幼馴染であり、漱石とも交友があつた人物です。この日、子規は今出からの帰路の途中、森月邸に寄り、左記の俳句を詠みました。



▶ 森月邸跡
(愛媛文化双書刊行会発行『子規と松山』より)

粉干すや 鶏遊ぶ 門のうち

⑥ 萩あれて 百舌啼く松の 梢かな

萩の花も散り、その上に架かる松の枝にモズが止まり鳴いていた様子がうかがえます。

村上霽月(二八六九―一九四六)

村上霽月は、今出紺株式会社
の社長を務めた他、伊予農業銀行や愛媛県信用組合連合会を設立した人物です。
彼は、俳句を通じて子規や漱石とも交友がありました。
霽月邸の庭には、風情ある築山があり、当時から有名でした。



▶ 霽月邸の庭(昭和四十五年頃撮影)
(松山観光ボランティアガイドの会)のホームページ 四国・松山まち歩き観光より)

⑦ 花木槿 家ある限り 機(はた)の音

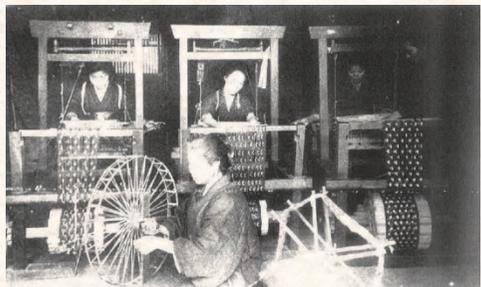
今出のまちに差し掛かると、どこかから繻(かすり)を織る機(はた)の音が響いていて、様子を表しています。「花木槿」については「中の川・石手川堤コース」の「I 大原恒徳邸・武家屋敷エリア」参照)

今出紺

今出紺は、江戸時代後期に今出(垣生)に住む鍵谷カナによって考案されたもので、明治になって全国的に普及するにつれて、伊予紺と呼ばれるようになりました。伊予紺は、一九八〇年に愛媛県指定の伝統的特産品となりました。

みどころ⑦

鍵谷カナの功績をたたえて作られた鍵谷カナ頌功堂を見てみよう。



▲今出紺を織る様子
(大正頃撮影) (『ふるさと松山』より)



5

重信川河口エリア



みどころ

重信川の土手に上がり、あたり一面を見わたしてみよう。



このエリアで詠んだその他の俳句

夕栄や 鱒の網に 人だかり

鶴鴿や 波うちかけし 岩の上

薯蕷積んで 中島船の 来りけり

⑧ 方十町

ほうじゅつちょう

砂糖木畠の野分哉

のわけかな

台風が近づき、あたり一面に広がっているサトウキビ畑の葉っぱが大きく揺れていた様子を表しています。

■ 方十町

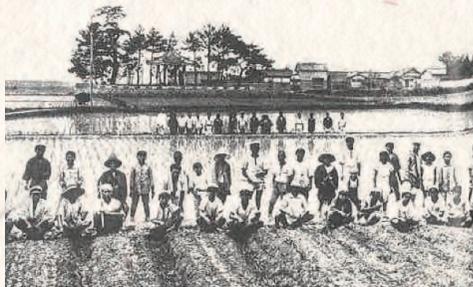
方とは方形、つまり四方のことであり、方十町とは、一キロ四方を表しています。

■ 砂糖木

砂糖木とは、松山の方言で、サトウキビのことです。

■ 野分

野分とは、台風のことです。



▲昔の街並み（昭和4年頃撮影）（『創造都市まつやま』より）
後方に鎌谷カナ頌功堂などが写っています。

⑨ 見ゆるべき

御鼻も霧の十八里

ぎり

浜辺一面に霧が立ち込めており、十八里先の佐田岬は見えにくかった様子がうかがえます。

みどころ⑧

重信川の河口から今出の海を見てみよう。



▲今出の海辺から見た景色（昭和45年頃撮影）
（「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ
四国・松山まち歩き観光より）